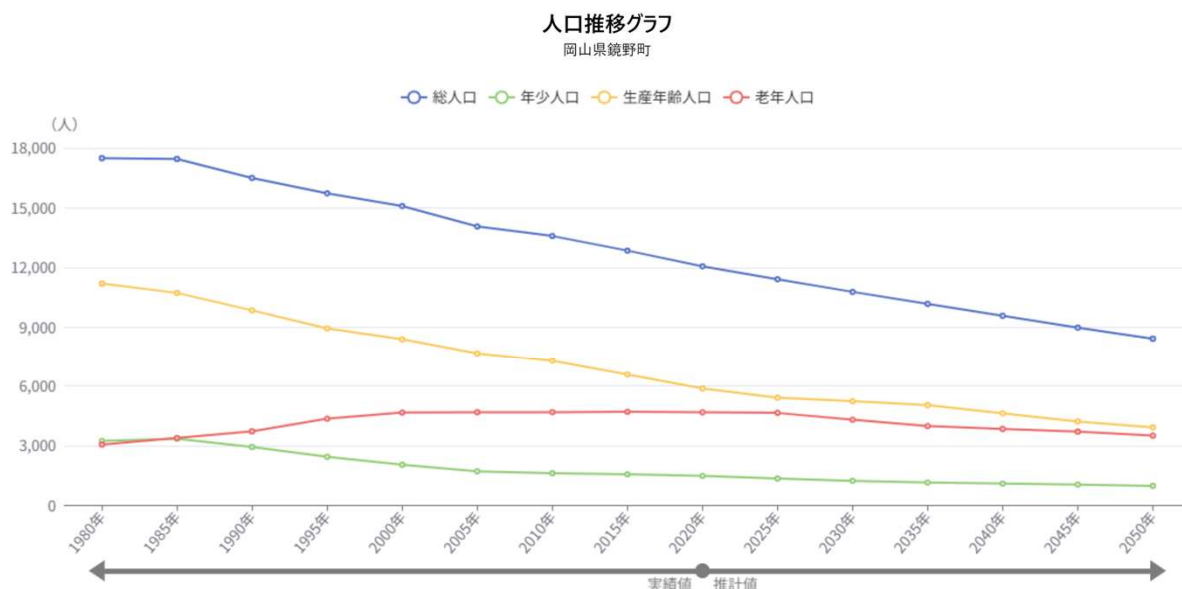


RESAS × 苫田郡鏡野町

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフでわかりやすく「見える化(可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）をまとめて推計しているため表示されない。

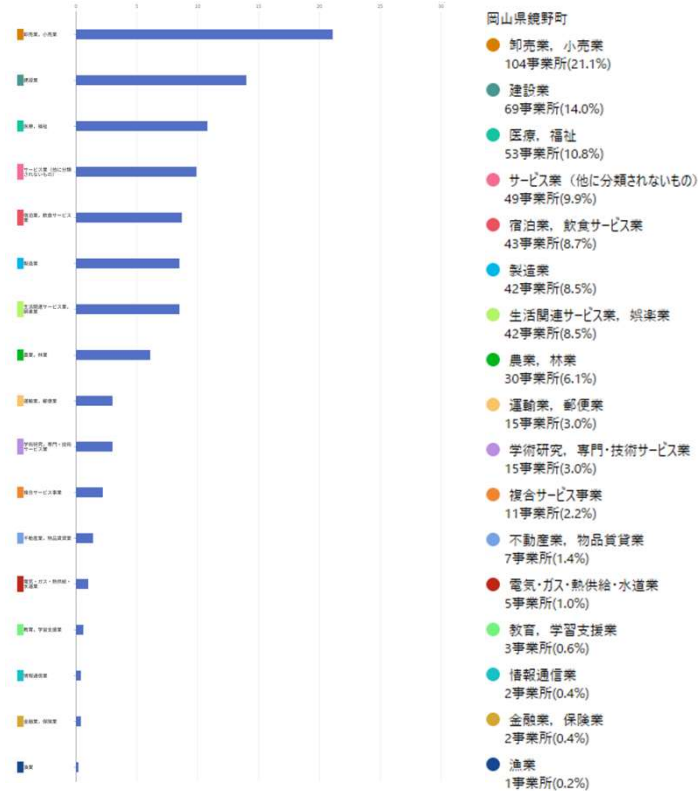
総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成→人口推移

2020年の人口は12,062人。10年前(2010年)の13,580人と比較して11.2%減少している。2050年の人口推計値は8,416人であり、2020年の人口と比較して約30%の減少が予測されている。また、将来人口の推移を年齢別にみると、年少人口、生産年齢人口、老年人口全てが減少傾向で推移する見込みである。

産業構造

事業所数(事業所単位)大分類(2021年)

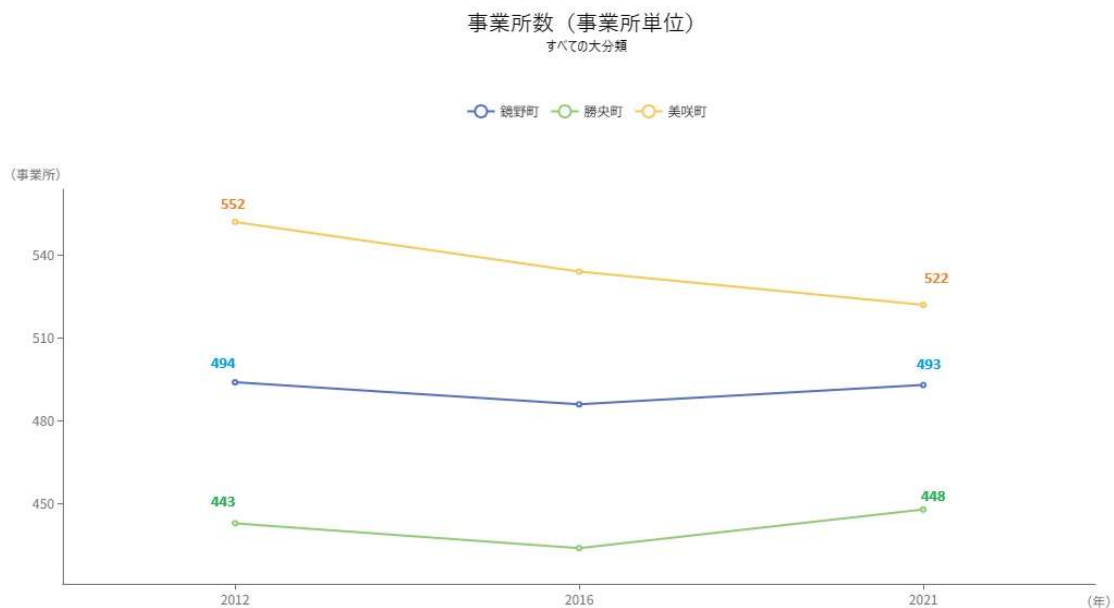


*産業構造マップ→全産業の構造→産業構成

業種ごとの事業所数を示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の104事業所で、全体の21.1%を占めている。その後、「建設業」の69事業所、「医療・福祉」の49事業所が続く。

事業数の推移

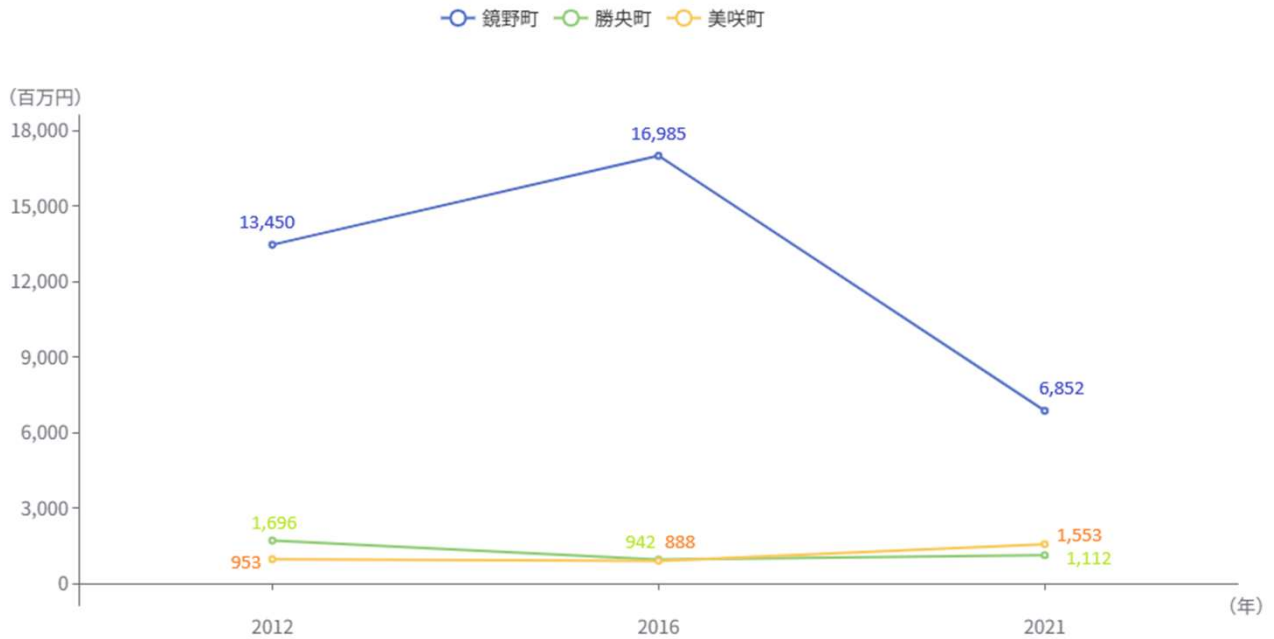
対象地域：鏡野町
比較地域：美咲町、勝央町



事業所数の推移を見ると、2021年の事業所数は493事業所。9年前の2012年と比較するとほぼ増減はなく横ばい状態である。他地域をみると、美咲町は5.4%減、勝央町は1.1%増となっている。

小売業・卸売業

付加価値額の推移

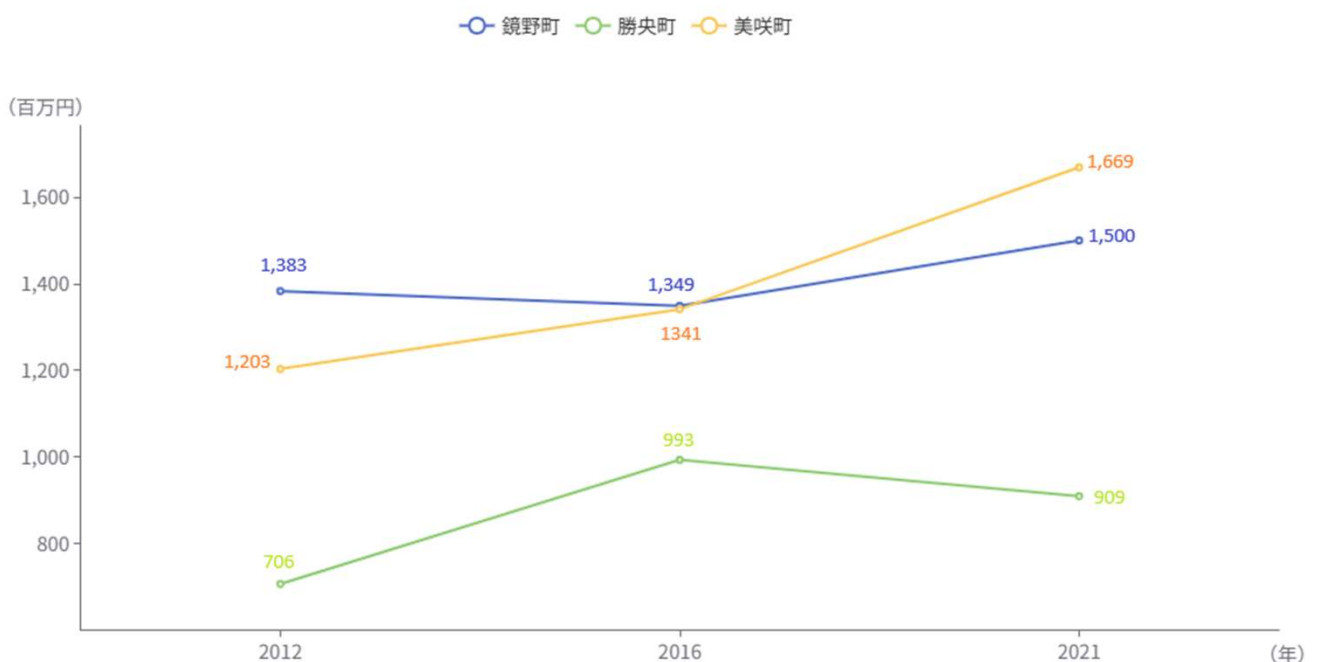


*産業構造マップ→推移(全産業)→付加価値額・I 卸売業、小売業

小売業・卸売業の付加価値額の推移を示したグラフである。鏡野町の付加価値額は6,852百万円。9年前の2012年と比較すると49.0%減である。他地域をみると、美咲町は62.9%増、勝央町は34.4%減となっている。

建設業

付加価値額の推移



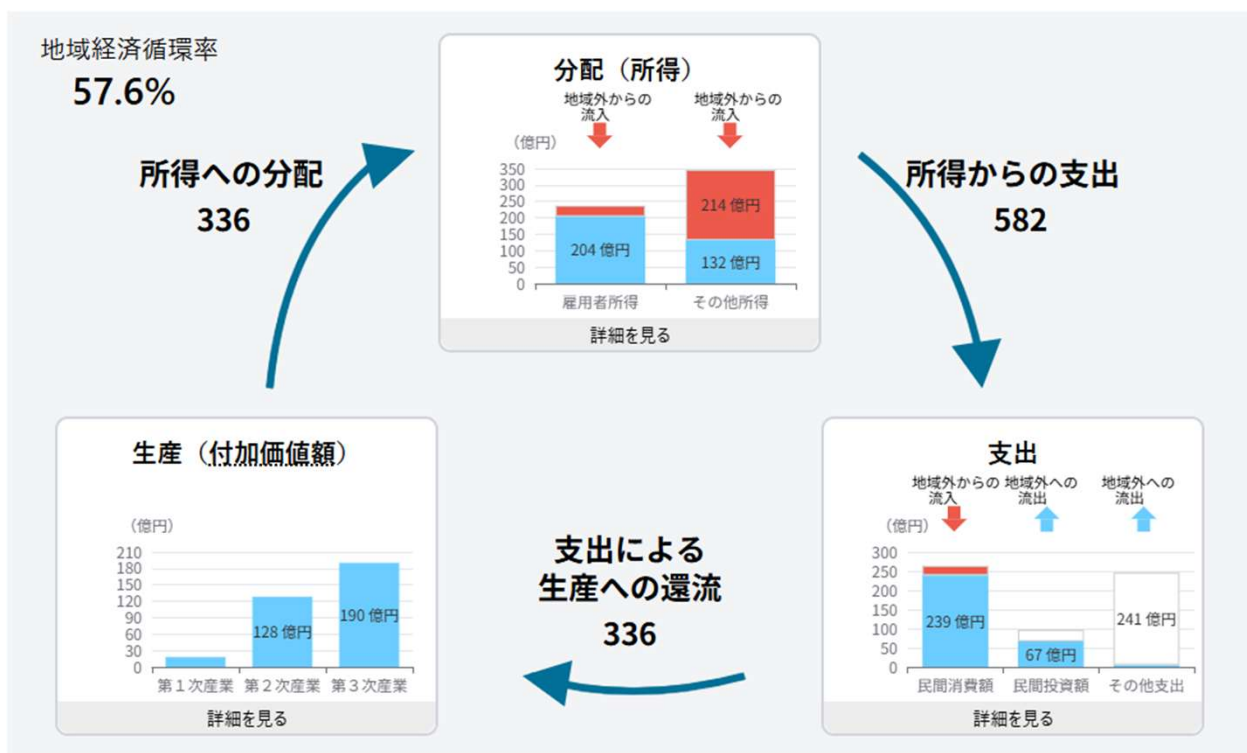
*産業構造マップ→推移(全産業)→付加価値額・I 卸売業、小売業

建設業の付加価値額の推移を示したグラフである。鏡野町の付加価値額は1,500百万円。9年前の2012年と比較すると8.4%増である。他地域をみると、美咲町は38.7%増、勝央町は28.7%増となっている。

地域経済循環

地域経済循環図(2018年)

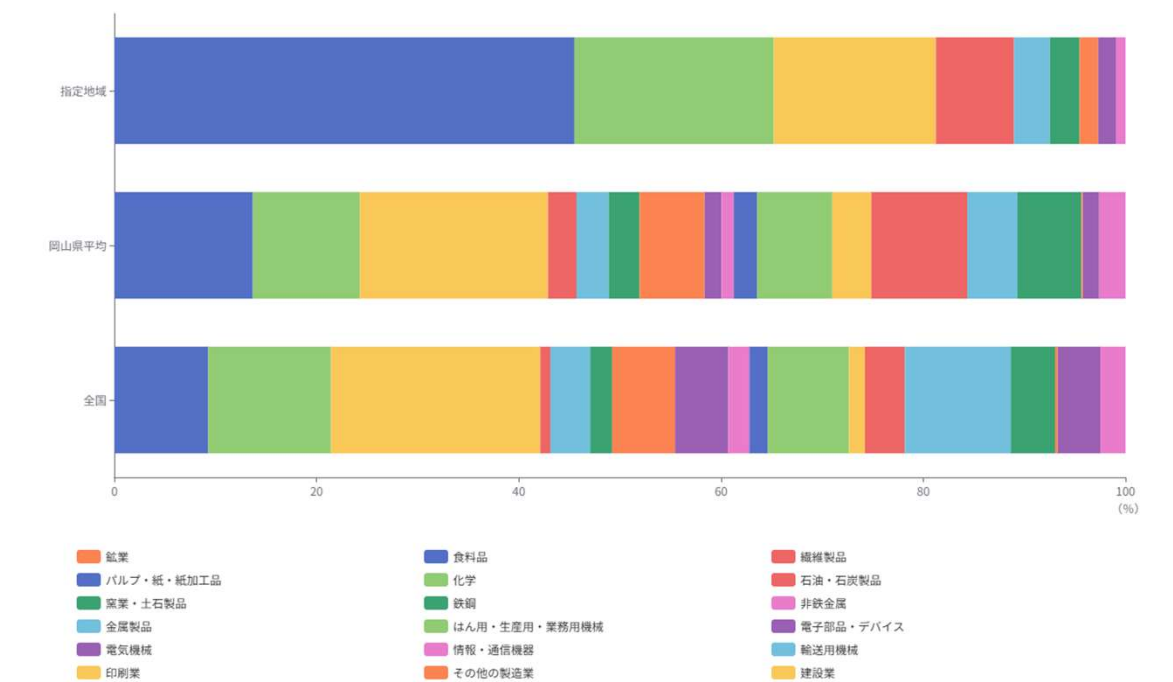
地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流にする。この流れを示したものが地域経済循環図である。



*地域経済循環マップ→地域経済循環分析

- ①鏡野町の企業は合計336億円の付加価値を生み出している。
- ②付加価値のうち、支出に回されるのは、582億円。町外からの流入があるので付加価値額を上回っている。
- ③町内で支出に使われた金額は、336億円。町外への流出があるため582億円より少ない。

生産分析(2018年)

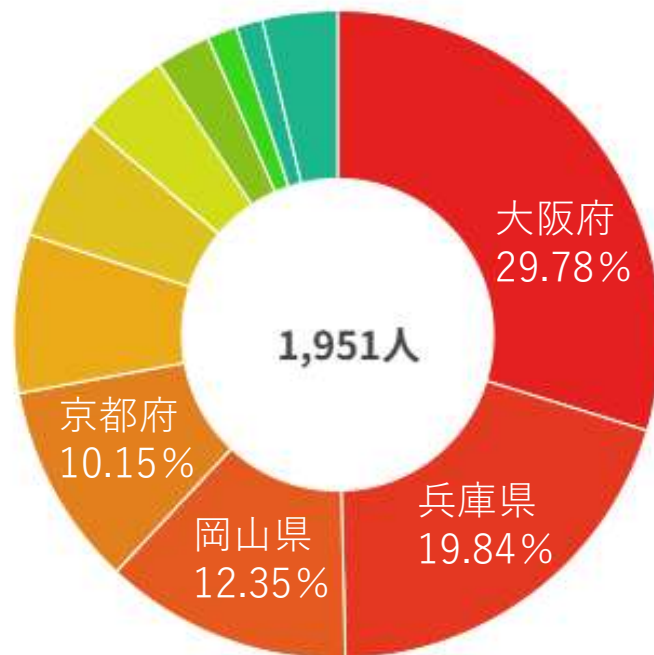


*地域経済循環マップ→生産分析

2次産業の「生産(付加価値額)」の内訳を示したグラフである。付加価値額が高いのは「食料品」である。

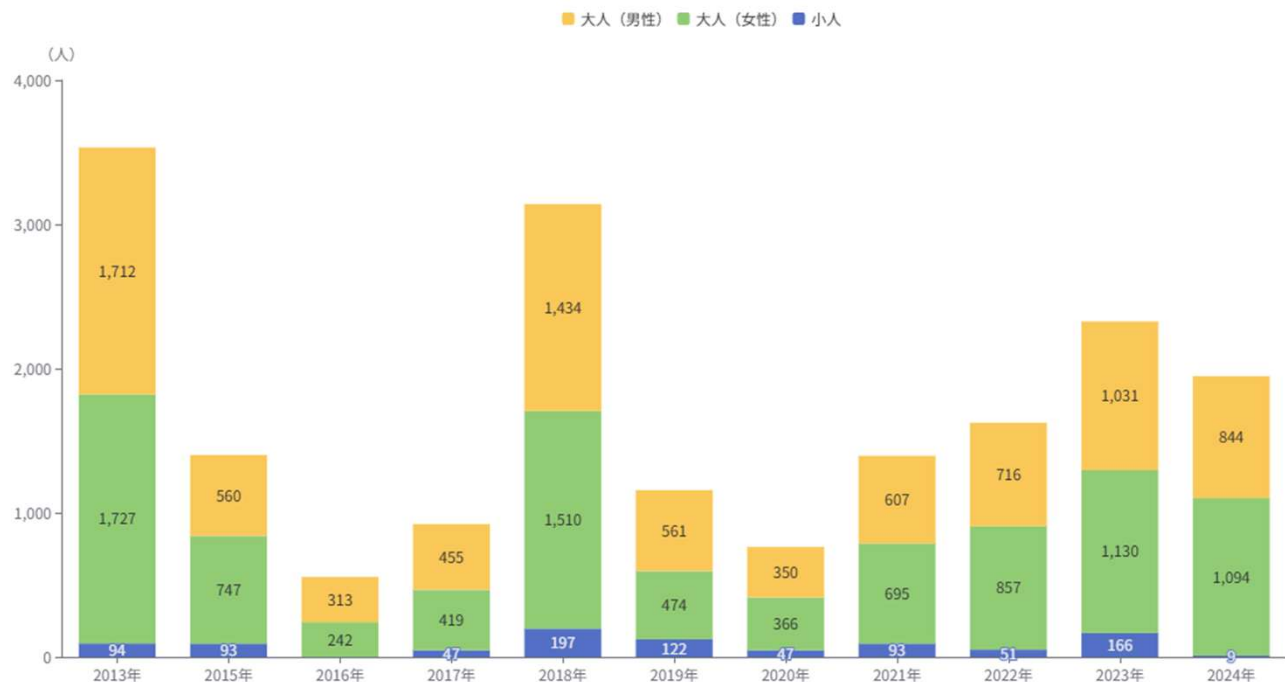
観光

宿泊者分析(2024年)



居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合を示したグラフである。大阪府が29.78%と最も多く、兵庫県の19.84%が続く。

属性別の延べ宿泊者数(総数)の推移



*観光マップ→宿泊者分析

属性別の延べ宿泊者数を示したグラフである。2013年をピークに、その後は増減を繰り返しながら推移しており、2018年には一時的に大幅な増加が見られるものの、その他の年については年ごとの差が大きく、安定的な増加傾向には至っていない。